

あなたの知らない？スズメの暮らし



スズメは人が住んでいる場所で建物や電柱など、さまざまなすき間を利用して子育てをしています。人がいる環境には捕食者が少なく、スズメは人をいわゆる用心棒として利用しているのかもしれませんが。彼らは人をよく観察しており、スズメにとって最適なのは近くに人がいて、なおかつ自分たちに無関心でいてくれることです。スズメは人に付かず離れず生活していると言えるでしょう。意外なことかもしれませんがスズメにとって最も怖いのは人なのかもしれません。スズメにとって人の存在は大きく、過疎化などにより住民のいなくなった集落ではスズメもいなくなってしまうほどです。

稲穂を食害するため農家には嫌われることもあります。お米との結びつきは強く、稲作文化とともに大陸から日本列島へ渡来したのではないかという説もあります。一年中身近にいると思われるスズメですが、定住している個体は少数です。その年に生まれたスズメは、夜は街路樹などに集まってねぐらを作り、昼は郊外の水田地帯などに出かけてえさを探しますが、やがて定住場所を求めて分散していきます。標識調査によって新潟県から岡山県へ移動した個体も確認されています。

スズメは東南アジアのほか、ユーラシア大陸にも広く分布しています。日本では民家に住んでいる印象が強いですが、ヨーロッパでは森林に住んでいます。英名の Tree sparrow はそこから命名されています。日本のスズメがどのように人に近づき、今のように人のそばで暮らすようになったのか、興味深いですね。

(写真撮影・提供：小椋信恵さん)

江田伸司(動物担当)

パオちゃん's EYEに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」
は博物館ホームページでカラーで見られるよ！

